

# 第2章 地区別計画



## 1 地区別計画について

### (1) 地区別計画とは

区内の11連合自治会・地区社協単位で開催される「地区別計画推進策定委員会」(以下、「地区別委員会」という。)が中心となって、各地区の特徴を生かした地区別計画を策定しています。

地区別計画に掲げられた目指したいまちのすがた・スローガンの実現を目指し、地区別委員会が中心となり、地域課題の解決に向けた取組を行うとともに、地域福祉保健の推進に係る各種の情報の共有・意見交換や振返りを行っています。

### (2) 地区別計画の推進及び策定の主体

#### ア 地区別計画推進策定委員会について

地区別委員会は、地区連合自治会、地区社協、地区民生委員児童委員協議会など様々な地域の活動団体の代表者などで構成されています。

すでに地域では、自治会活動を中心に様々な活動が行われており、担い手の確保や世代間交流などの共通課題を解決するとともに、地域活動を継続し、団体間の連携をより強化することなどが求められています。

地区別委員会では、そうした地域課題の解決に向けた取組を行うとともに、地区別計画の推進に向けた各種情報共有や意見交換等を行います。

#### イ 地区別計画支援チームについて

緑区では、地区別計画の推進に向けて、地域住民が主体となって推進していきよう、区・区社協・地域ケアプラザ等の職員で構成する「地区別計画支援チーム」が引き続き各地区を支援します。「地区別計画支援チーム会議」を開催し、チームメンバーが日常業務の中で把握した地域の情報や課題などを共有し、解決策や取組について検討しています。

#### ウ 地区別計画推進策定委員会連絡会の開催

地区別委員会の委員長、地区別計画支援チームのチームリーダーなどが参加する「地区別計画推進策定委員会連絡会」(以下、「連絡会」という。)を開催し、地区別委員会の開催状況やスケジュールの共有、各地区の取組内容などの情報交換・意見交換などを行います。



### (3) 地区別計画の振返り方法

地区別委員会の議論の内容をまとめた「地区別計画推進策定委員会通信」を、各地区年2回程度発行し、自治会回覧等を行っています。これらの通信等をまとめ、各年度の「推進状況報告書」を作成し、地区別計画の推進状況についてまとめて、翌年度の各地区別委員会における振返りに活用しています。また、連絡会において、各地区の取組状況について情報共有を行います。

なお、計画推進期間の3~4年目(令和5~6年度)には次期計画策定の素地となる中間振返りを行う予定です。



# 東本郷地区 地区別計画

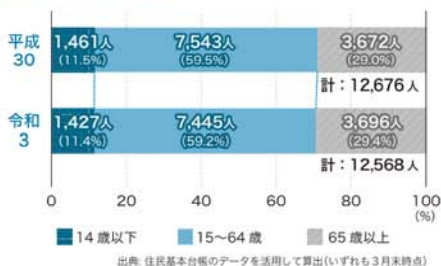


## 地区の特徴

昭和40年代から計画的に開発された戸建てを中心としたまちです。少子高齢化が進行し、小学校の児童数は15年前から半減しています。また、高齢化率も約30%となっており、中でも東本郷2・3丁目の高齢化率が特に高く、50%に迫りつつあります。

一方で、従来から多くのボランティア団体・グループや趣味サークルなど、住民による活動がとても盛んです。活動を通じて、住民同士のつながりづくりができていくことは、東本郷地区の大きな特徴のひとつです。

## 人口データ



## 地区の活動紹介



▲ ひがほん郷まつり



▲ ささえ愛の会



▲ 美化活動

## 第3期計画の振り返り

自治会や地区社会福祉協議会、第3期計画から立ち上がった4つの専門委員会(「高齢者支援ネットワークづくり」「認知症」「子ども・子育て」「東本郷健康づくり」)等を中心に、地区別計画を推進してきました。

令和元年度に9回目を迎えた「ひがほん郷まつり」は、様々な世代が交流できるイベントとして定着するなど、従来から取り組んできた活動が継続できています。また、新たに隣近所での見守りの必要性や、認知症対策の普及啓発、健康寿命の延伸のための取組、子どもの居場所づくりについて取り組んできました。

その一方で、少子高齢化、ライフスタイルの変化に伴い、地域活動への参加者が増えておらず、活動の担い手の固定化などの課題があります。

## 東本郷地区 地区別計画推進策定委員

次の各団体等の代表者で構成しています。(順不同)

- 連合自治会 ● 単自治会 ● 地区社会福祉協議会 ● 民生委員児童委員協議会
- 保健活動推進員 ● 老人クラブ ● 環境事業推進委員 ● まちづくり協議会
- 友愛活動推進員 ● スポーツ推進委員 ● 青少年指導員
- 地域防災拠点運営委員会 ● 家庭防災員 ● 子育てサロン
- ささえ愛の会 ● みどり看護学校 ● 小学校 ● 小学校PTA ● 中学校

目指したいまちのすがた・スローガン  
地域が息づき、みんなが安心・安全を感じ、  
住んでよかったと思えるまち 東本郷

### 重点取組

1 これからも、安心・安全な地域でつながり、支え合い、一緒に楽しみを共有します

#### 具体的な活動

- 子どもから高齢者までの世代を超えた交流を促進するため、「ひがほん郷まつり」や体育祭、防災訓練など全員参加型の行事・イベントについて継続します。
- 様々な活動団体同士が、お互いの活動内容を知り合い、多世代間の「つながり」づくりが進むような機会を設けます。
- 「つながり」を活かして、他団体の好事例の共有や様々な団体との協力関係づくりを進めていきます。
- 地域で行われている活動を次世代につなぐために、活動の担い手の負担軽減の取組を進めます。(例:OB・OGによる活動フォロー、活動引継ぎに関するマニュアル作成 等)
- 安心・安全が感じられるまちを目指して、地域の防犯や交通安全などについても、学校をはじめとした様々な機関・団体と連携して取り組みます。

### 重点取組

2 地域の情報を誰もが入手しやすくします

#### 具体的な活動

地域の情報を住民同士が口コミで発信することに加えて、次のことに取り組みます。

- 全員参加型の行事・イベントの機会を活用して、団体の活動情報について広く周知できるよう工夫します。
- 地域の情報が必要な人に届くよう、自治会の回覧板等による情報伝達手法の改善を検討します。
- 回覧板・掲示板などを活用した広報紙などの紙媒体に加えて、ホームページやSNSなどの電子媒体を活用した情報発信に取り組みます。

### 重点取組

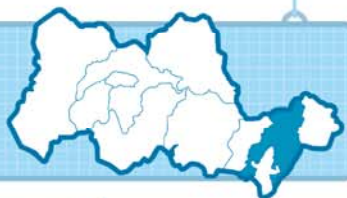
3 テーマ別の課題解決に向けて、地域の団体が連携して取り組みます

#### 具体的な活動

次のテーマ別の取組については専門委員会が中心となって推進します。

- ひとり暮らし高齢者や複合的な課題を抱える世帯に対する見守り活動について、民生委員・児童委員を含めた地域としてできることを検討します。
- 将来家族の介護を担うことになる若い世代への認知症対策の普及啓発を進めます。
- 子どもから高齢者まで地域の誰もが気軽に集うことのできる居場所づくりにあたっては、地域にある自治会館等の既存施設の活用も含めて検討します。
- 住民が参加しやすい場所での健康づくりの取組を実施します。(例:ラジオ体操 等)

# 鴨居地区 地区別計画

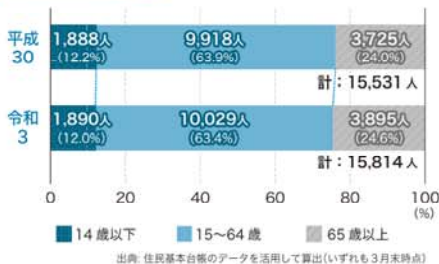


## 地区の特徴

鴨居駅周辺などを中心に戸建てやマンション開発が続いており、人口はこの15年程は約15,000人程度で微増しています。

40年程前に開発された地区(4・7丁目)などでは、高齢者・要介護者なども多く、介護予防、健康づくり、生活支援などの分野で課題が生じてきています。少子高齢化による後期高齢者の増加率が顕著で、この10年程で1,000人以上増加していくことが予測されます。

## 人口データ



## 地区の活動紹介



▲ ボランティア活動「鴨居チョイボラ」



▲ ステイホーム鴨居福祉まつり



▲ 鴨居こども食堂ばくばく

## 第3期計画の振り返り

自治会のOB・OGも活躍できる機会づくりとして、住民アンケートや説明会等の準備を重ね、「鴨居チョイボラ」というお助けボランティアの仕組みを立ち上げました。ボランティア(サポーター登録者)は約100人おり、ニーズ等を検証しながら活動の充実を目指しています。高齢化が進む中で、今後「鴨居チョイボラ」が地域に定着し、推進されていくことが大切です。住民にとって、できる範囲で携わることのできる活動があることは、本人の健康づくり・生きがい、ひいては地域のつながりのあるまちづくりにも結びついていくことが期待できます。

また、地域活動基盤を支えるために、「自治会は大人の部活だ!!」をキャッチフレーズに、オリジナル自治会加入促進パンフレットを作成し、転入世帯に配布しています。「黄色いリボン」の取組では、使い方実践のため年に2回の一斉実施日を指定し掲示率の向上を図っています。そして、男性も気軽に集うことのできる場づくりの活動にも取り組んでいます。コロナ禍で「新しい生活様式」に合わせた活動の工夫を模索しながら、地域に根差した取組を進めています。

## 鴨居地区 地区別計画推進策定委員

次の各団体等の代表者で構成しています。(順不同)

- 連合自治会 ● 単自治会 ● 地区社会福祉協議会
- 民生委員児童委員協議会 ● 青少年指導員 ● スポーツ推進委員
- 家庭防災員 ● 保健活動推進員 ● 消費生活推進員
- ボーイスカウト ● 鴨居おやしの会 ● 鴨居消防団

目指したいまちのすがた・スローガン  
あなたが主役 地域が舞台 人情あふれる街・鴨居  
～住み続けたい鴨居 笑顔をあなたに!!～

## 重点取組 1 地域で支え合い、つながりを大切にすまちを目指します

### 具体的な活動

- 鴨居チョイボラの活動を継続・拡大し、生活上の困りごとを抱える住民に広く利用してもらい、住民同士が支え合う意識を醸成します。また、広く住民に馴染み、利用促進につながるための周知を進めます。
- 高齢化するサポーターの安全面などに配慮し、活動参加者について若い世代から高齢世代まで互いに支え合えるように検討します。
- 子どもから高齢者、外国人等の地域での居場所づくりや困り事をサポートする活動を継続し、挨拶や交流を通じて顔の見える関係づくりを進めます。
- 第3期に作成したパンフレットを活用する等、自治会加入促進の取組を継続し、ゴミ出しのマナーや災害時の支え合い活動等への理解・協力を広めます。

## 重点取組 2 安全・安心のまちを目指します

### 具体的な活動

- 日頃から支援につながりやすい関わりを意識し、災害時に安否確認できるよう、「鴨居防災ささえあいカード」や「黄色いリボン」、「緊急時情報シート」の取組を継続します。
- 災害時の対策や取組が住民に行き届くための周知を引き続き進めます。



# 竹山地区 地区別計画

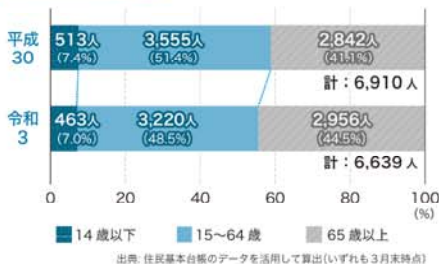


## 地区の特徴

若い世代が減少し、少子化が進行しています。高齢化率は令和3年3月末日現在で44%を越え、担い手が高齢化し、見守りの必要な対象者も増加しています。20年程前は1万人以上いた総人口は現在6,600人にまで減少し、このまま推移すると2030年には、高齢化率が50%を越えることが見込まれます。

一方で令和2年より神奈川大学サッカー部が清掃活動や地域行事等に参加するなど地域のコミュニティが広がっています。

## 人口データ



## 地区の活動紹介



▲ カフェふらり



▲ 神奈川大学サッカー部による地域清掃活動



▲ 竹山地区地域福祉保健に関する実態調査アンケートの実施

## 第3期計画の振り返り

「ふれあいさるん竹多久」に「カフェふらり」が誕生し、地域・介護・医療が包括的につながれる場となっています。世代間交流では、竹山商店街に多世代交流のフリースペースとして「みんなの池活クラブ」がオープンし、竹山小学校と連携して環境調査も実施しています。竹山ボランティアセンターでは、身近なお手伝いを行っており好評です。まち全体として、様々な行事や取組を行っていますが、子ども・子育て世代の人口減少の中で、またコロナ禍において、地域交流の工夫が求められています。

自治会では「防災ささえ愛カード」の取組を継続しています。また、地区社会福祉協議会のホームページもリニューアルしました。

竹山連合自治会等が行った住民アンケート(令和元年度実施)では、負担感の大きさや高齢化、時間がない等の理由による活動への参加者や担い手の減少がうかがえます。また、活動やサービスについての情報が十分に伝わらないこともうかがえます。高齢者人口が増加し、若い世代が減少する中で、地域の活力を保持しながら支え合うための議論が続いています。

## 竹山地区 地区別計画推進策定委員

次の各団体等の代表者で構成しています。(順不同)

- 連合自治会
- 単位自治会
- 地区社会福祉協議会
- 民生委員児童委員協議会
- 保健活動推進員
- 青少年指導員
- スポーツ推進委員
- 小学校
- 小学校PTA
- 保育園



目指したいまちのすがた・スローガン

## 安全に安心して仲良く暮らせる街づくり

### 重点取組

**1** 様々な地区活動やボランティア活動等の体制づくりを進め、担い手の負担軽減に取り組みます

#### 具体的な活動

- 役割負担を軽減できるように、組織形態や活動内容など、これまでの地区活動の仕組みややり方の見直しを検討します。
- 「新しい生活様式」に即した行事の内容ややり方、各自治会同士での協力体制などについて話し合いを進め、活動の活性化と次世代への継承に努めます。

### 重点取組

**2** 見守りが必要な人についての情報共有の工夫や知りたい情報を正確に迅速かつわかりやすく知らせる工夫に取り組みます

#### 具体的な活動

- タブレットを使ったオンラインの活用や地区内での様々な連携、近隣住民の気づきなどにより、見守りが必要な人の情報を共有します。
- チラシの作成や掲示の工夫等、誰もがわかりやすく伝わりやすいように、正確な情報伝達に努めます。
- 近所のコミュニティや団体間、管理組合との連携を生かして、情報を迅速に伝えるための仲間づくりを広げます。
- 「防災ささえ愛カード」などの取組を通じてデータベースを更新し、平常時も含めて必要な時に情報が取り出せる災害時の連絡体制づくりに継続して取り組みます。

### 重点取組

**3** 世代間・団体間の交流を実現できる体制を構築します

#### 具体的な活動

- 地域交流の基本となる「挨拶」をお互い意識して活動します。
- 美化活動やラジオ体操などの身近な地域行事や活動において、子どもから高齢者まで誰もが参加し、交流できる機会をつくり、相互の見守り体制を進めます。
- 地域行事や地区内の活動を工夫し、各団体などと連携しながら「新しい生活様式」の中で学生をはじめとした若い世代が参加し、交流できるよう取り組みます。
- 竹山小学校と連携した小学生でもできるミニボランティアの仕組みを検討します。

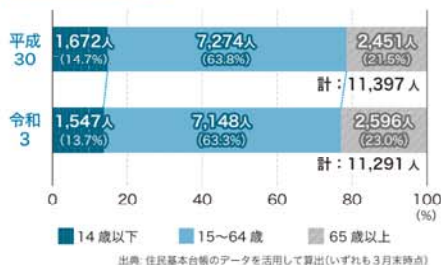
# 白山地区 地区別計画



## 地区の特徴

開発から30年程が経過した山坂の多い戸建て住宅街では高齢化が進んでいますが、再開発された3丁目などは、乳幼児・子育て世代の人口比率が高くなっています。また、丘陵側と鶴見川沿いでの地理的な違いもあり、外出への影響など支援のニーズが異なることがうかがえます。高齢者人口は今後約15年で1,000人程度増加していくことが予測されています。

## 人口データ



## 地区の活動紹介



▲ 白山ボランティアの会「猫の手」



▲ はくさんHAPPY MAMA'S



▲ 白山地区配食サービスわかば会

## 第3期計画の振り返り

食事会や配食サービスは、ひとり暮らしの高齢の利用者が増えており、食事を届ける際の声かけを大切にしています。また、担い手は高齢化により減少しています。コロナ禍での感染予防が求められる中で、活動の工夫について模索しています。地区社会福祉協議会が中心となり発足したボランティアグループ「猫の手」は、地域への宣伝にも力を入れてパトロール活動や草むしりを実施しています。

子育て支援では、「コガモひろば」や「はくさんHAPPY MAMA'S」を感染対策に配慮しつつ開催しており、どちらも好評を得ています。

犯罪発生への抑止力となるパトロール活動を継続・推進中です。令和元年度は防犯推進委員会が設立され、マンション各自治会、白山自治会及び白山緑自治会で連携し合同防犯パトロールを4回実施しました。取組を広げる上では、地域内での円滑な情報共有が課題です。

地域防災拠点では、令和2年度は機材及び救出訓練に加えて、避難生活スペースの区割りを再検討し、発災時を想定した拠点開設・運営訓練を実施しました。また、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた避難者受付訓練にも取り組みました。

美化分野では、担い手の高齢化で活動が難しくなる場合もあり、参加人数の減少が課題になっています。

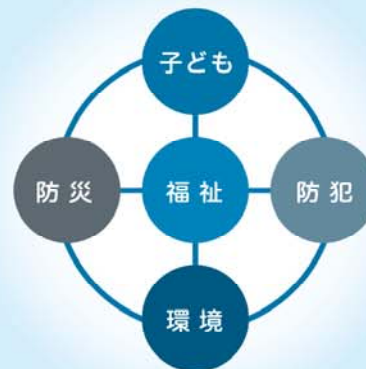
## 白山地区 地区別計画推進策定委員

次の各団体等の代表者で構成しています。(順不同)

- 連合自治会 ● 単位自治会 ● 地区社会福祉協議会 ● 民生委員児童委員協議会
- 消費生活推進員 ● スポーツ推進委員 ● 青少年指導員 ● 保健活動推進員
- わかば会 ● いちえ会 ● コガモひろば ● 消防団 ● 白山グリーンクラブ
- 白寿会 ● 白山シニア会 ● 環境事業推進委員 ● 交通安全協会

# 目指したいまちのすがた・スローガン 白山の自助・共助・近助による安全・安心なコミュニティづくり ～ 白山の絆で団結しよう!～

5つの重点取組を相互に関連させながら、住民同士がつながり合い、地域の中でゆるやかな見守りのネットワークを広げていきます。



## 重点取組 1 福祉 孤立化を防ぎ、つながりを広げよう

### 具体的な活動

- 1 地区内の住民の高齢化に伴い、民生委員・児童委員による見守り訪問、自治会活動や食事会、配食サービスなどを通じて、顔の見える関係をつくり、ゆるやかに見守れる地域を目指します。
- 2 活動団体同士や参加者同士がつながるよう、各団体で互いの活動について情報共有し、協力して互いの活動をPRします。

## 重点取組 2 子どもの健全育成 子育てしやすい地域づくりをめざそう

### 具体的な活動

- 1 子どもの見守り活動に携わる活動者と子どもたちが挨拶を交わしながら、子どもたちの育ちを見守る意識を醸成します。
- 2 「コガモひろば」や「はくさんHAPPY MAMA'S」など、身近な場所で集うことのできる子育てサロンを継続するとともに、活動が存続できるよう負担軽減を検討します。
- 3 子ども会の役員負担を軽減できるような仕組みづくりを引き続き検討します。

→ 次ページへ続く

## 重点取組 3 防犯 地域の防犯力を高めよう

## 具体的な活動

- 1 「声かけは防犯の第一歩」を合言葉に、防犯パトロールは健康づくりや情報収集などにも役立つことをPRし、より多くの参加者を募ります。
- 2 誰もが気軽に参加できるように、地区全体で実践できる防犯パトロールの仕組みを引き続き広げていきます。  
(例：実施時間帯やパトロールコースの工夫 等)
- 3 防犯に関する意識を高めるため、研修会の開催などにより地域住民の意識啓発に取り組みます。

## 重点取組 4 防災 地域の防災力を育もう

## 具体的な活動

- 1 作成した各エリアの防災対応マニュアルを地域全体の会合等の場で共有し、まちの共助の力の向上につなげます。
- 2 災害時に援護を要する住民の情報を、活動者側が簡単に把握できる取組をより一層進めます。  
(例：訓練時に玄関先に各世帯の安否状況を確認できるようにする 等)
- 3 自治会が防災訓練の開催にあたって、様々な活動団体やマンション管理組合、近隣企業等と連携することで、日頃からの関係づくりに取り組みます。

## 重点取組 5 環境 ごみ・美化・地球温暖化などの課題に地域で取り組もう

## 具体的な活動

- 1 各自治会や各団体で行っている活動について、地域全体の会合等の場で情報交換し、互いのよいところを広めながら、まち全体で環境課題の解決に向けた取組を推進します。
- 2 花植えや清掃などの活動を通じて、美化や防犯に役立つ緑豊かな環境をつくるとともに、つながりのあるコミュニティの醸成を目指します。

「新型コロナウイルスに負けるな！  
地域活動応援プロジェクト」

～地域活動団体向け緊急アンケートの結果とその後の取組～

令和2年の年明けから日本国内でも広がった新型コロナウイルス感染症は、地域の皆さんが今まで続けてきた地域活動・ボランティア活動にも影響をもたらし、今までと同じように続けることが難しい状況となっています。そのような状況の中で、緑区社協では、令和2年6月に地域活動団体（主に緑区ふれあい助成金・緑いきいき助成金の助成団体約100団体）に向けた緊急アンケートを行いました。アンケート結果からは、悩みながらも、感染予防に取り組みながら、できる範囲で活動を再開したり、オンライン等の新たな活動様式にチャレンジしている団体も見られました。

## アンケート結果（一部抜粋）

Q 困っていること、気になることがあったら教えてください。

## A 主な意見

- 利用者やボランティアも高齢者や障害者なので、活動場所が利用できるようになっても、感染のリスクを考えると活動の再開に慎重になってしまう。
- 活動がお休みで、自宅にこもっている利用者（高齢者・障害者）が心配。
- 「新しい生活様式」等の感染予防の対策をとりながら活動をするにも限界がある。

Q “with コロナ”の中で地域活動・市民活動を行うために「必要」「あったらよい」と思う支援・サポートがあったら教えてください。

## A 主な意見

- 消毒液やマスク等の支給があったらよい。
- 感染予防方法の指導や新型コロナウイルス等の情報をより多く、わかりやすく教えてほしい。
- “with コロナ”“after コロナ”の中でもできるボランティア活動の行動指針やマニュアル等がほしい。

これらのアンケート結果を受けて、緑区社協では、「新型コロナウイルスに負けるな！地域活動応援プロジェクト」を実施しました。その取組の一部をご紹介します。

## 「ハガキ DE つながり」プロジェクト

「ハガキ」を活用して、活動がお休み中でもボランティア同士・利用者とのつながりを感じてもらおう取組として実施しました。区内で活動している地域活動団体など、趣旨に賛同していただける団体に区社協からハガキを無償で提供しました。ハガキ裏面のイラストは区内のNPO法人ぶかぶかで活動する障害のあるメンバーが描いたものを使用しました。



## 「ボランティア活動は私たちのまちの宝物」リーフレット配布

こんな時だからこそ、再確認！という趣旨で横浜市社会福祉協議会作成のコロナ禍での地域活動の意義・できることをまとめたリーフレット（活動を行う上でのチェックリスト付き）を配布しました。



## 緑区医師会協力 動画配信



「新型コロナウイルスに負けないぞ！PCR検査と地域活動でつながり続けるために」と題して、緑区医師会会長二宮浩先生（当時）に動画出演いただき、横浜市内で行われている「PCR検査」についての情報提供や地域活動を行う上で、医師の立場からメッセージをいただき、配信しました。

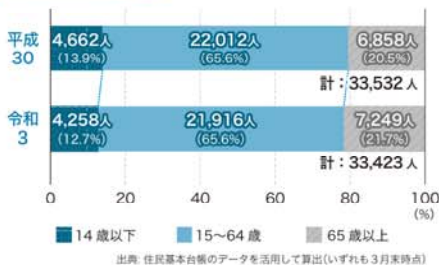
# 新治中部地区 地区別計画



## 地区の特徴

中山駅周辺は若い世代の転入が進んでいるものの、地区全体では人口が微減しています。一方で、築年数の経過したマンションや急な山坂の上にある戸建ての住宅街を中心に高齢化が進んでいます。地縁のない若い世代や身近な支援者のいない世帯など、つながりや見守り等の課題が顕在化していますが、見守り側である地域の担い手も不足しています。

## 人口データ



## 地区の活動紹介



▲ 町ぐるみ健康づくり教室



▲ 地域ふれあいフェスティバル



▲ リハビリ教室ぬくもり

## 第3期計画の振り返り

小・中学生が応募する「防犯・防災キャッチフレーズ」は、テーマに防災を追加しました。地域ふれあいフェスティバルで表彰式を行うことで、子どもの自尊心を高める機会となり、学校と地域とが連携する行事の一つとなっています。

また、各自治会で防災活動に取り組んでいます。発災時は住民の混乱が予想されるため、地区全体での連携や取組への参加がますます大切になります。

そして、高齢者等の日常の見守り体制づくりの議論から、地域の新聞販売店2社と見守り協定を締結しました。定期的な意見交換等も行いながら、見守りの目と意識を地域全体に広げています。若い世代を中心に人口が増えている一方、世帯人数が減少し単身世帯や夫婦のみ世帯も増えて高齢化が進んでいることがうかがえます。今後、地域でのつながりを生かした顔の見える関係づくりと、ゆるやかな見守りの理解を広げることが、安心して暮らし続けられるまちづくりにつながると考えられます。

## 新治中部地区 地区別計画推進策定委員

次の各団体等の代表者で構成しています。(順不同)

- 連合自治会
- 単位自治会
- 地区社会福祉協議会
- 民生委員児童委員協議会
- 保健活動推進員
- 青少年指導員
- 老人クラブ
- 食事会
- 子ども育成会
- 小学校
- 中学校



目指したいまちのすがた・スローガン

# 次世代まで安心して笑顔で暮らし続けられるまち

## 重点取組 1 防犯・防災に強い安全・安心のまちづくり

### 具体的な活動

高齢世代だけでなく、若い世代を含めた幅広い住民の防犯・防災意識を醸成するために次のことに取り組みます。

- 防犯・防災に関連した活動について若い世代の参加を促す工夫をします。  
(例: 防災訓練への参加について学校と連携した効果的の周知方法の検討 等)
- 子どもたちが参加するイベントに併せて、防災に関する啓発活動を開催するなど、若い世代が防災に興味を持つような工夫をします。
- 地域に住む外国人に防犯・防災活動への参加を促す工夫をします。

## 重点取組 2 住民同士の顔の見える関係が築かれたまちづくり

### 具体的な活動

- 回覧板を届ける際や、会費の集金時など、日常生活を通して、ご近所同士の顔が見える関係づくり、ゆるやかな見守りを進めます。
- 防災訓練、盆踊りやお祭りなどの地域活動を通して、地域の顔が見える関係づくりを進めます。
- 新聞販売店と連携した見守り活動とともに、住民同士の身近な見守り活動を進めます。

## 重点取組 3 次世代につながるまちづくり

### 具体的な活動

- 若い世代から高齢世代までの世代を超えた交流を促進するため、運動会や盆踊り、お祭り、防災訓練など全員参加型の行事・イベントについて継続するとともに、楽しんで参加できるように内容を工夫します。
- 行事・イベントの参加者同士でつながりを深められる工夫をします。
- 行事・イベントのスタッフ側も参加しやすいように、役割負担の軽減と明確化に努めます。
- 若い世代が活動の情報を入手できるように、学校と地域が連携した発信やSNSの活用などに取り組みます。

# 三保地区 地区別計画

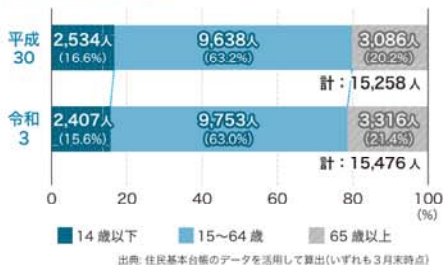


## 地区の特徴

公営住宅などの集合住宅がある他に戸建住宅も多く、子育て世代の転入増加が続いて年少人口の割合は区の平均を上回っています。一方、高齢者人口の割合は区の平均より低いものの、人口の増加も続いています。

三保地区には市民が利用できる公共施設がなく、駅から遠い地区や坂が多い地区もあるため、身近に歩いて行ける居場所・活動拠点づくりが求められてきました。

## 人口データ



## 地区の活動紹介



▲ ヨガサークル(さんさんルーム1号館)



▲ 書道サークル(さんさんルーム2号館)



▲ ムサシあゆみの里(武蔵中山台自治会館)

## 第3期計画の振り返り

ウォークラリー大会や子どもフェスタなど各団体が協力しながら開催し、子どもから高齢者まで楽しみながら交流を深めています。他にも学校との連携や各団体により、多様な行事や活動、サロン等が行われています。

高齢者や子どもが増えている中、平成28年に見守り検討プロジェクトが発足し、見守り強化のため、地域の新聞販売店と見守り協定を締結しました。今後は、見守り対象者が地域で増えていく予測の中で、地域のつながりを広げながら支援が届く工夫を検討していく必要があります。

また、長年の地域の課題であった活動拠点(居場所)づくりのために、見守り検討プロジェクトから進展した、見守り・居場所づくり検討委員会が平成28年に発足しました。地域の事業者・三井住建道路株式会社南関東営業所と協定締結し、同社の会議室を「さんさんルーム1号館」と名付け、地区住民が使用できる新たな居場所として運用が始まりました。さらに、三保町自治会館前にあるマンションの空き室を「さんさんルーム2号館」と名付け開設して、連合自治会が主体となり運営を始めました。

## 三保地区 地区別計画推進策定委員

次の各団体等の代表者で構成しています。(順不同)

- 連合自治会 ● 単位自治会 ● 地区社会福祉協議会
- 民生委員児童委員協議会 ● 保健活動推進員 ● 消費生活推進員
- 青少年指導員 ● スポーツ推進委員 ● 老人クラブ ● 防犯指導員
- 友愛活動推進員 ● 三保おやし団 ● 小学校 ● 小学校PTA
- さんさんルーム2号館管理運営委員会

# 目指したいまちのすがた・スローガン ゆるやかな見守りや支え合いのできる仲間づくり

## 重点取組 1 地域でのつながりを大切にし、活動を活発にしたい

### 具体的な活動

- 地域の交流の機会や場を次世代へつなげていけるよう、住民の声も踏まえながら、各団体が協力して、行事やイベント等に継続して取り組みます。
  - ・「健民祭」「ウォークラリー」「子どもフェスタ」「ふれあい給食」「昔遊び」「収穫祭」
  - ・サロンや教室など
  - ・ウォーキングや体操などの健康づくり活動
- 子どもや子育て世代が行事やイベント等に参加しやすくなるよう、学校との連携や、SNSやホームページ等の活用など、周知方法を工夫します。
- 地域の居場所「さんさんルーム」等を活用して、地域の皆が参加できる活動や交流の場づくりを進めます。

## 重点取組 2 活動・交流を通じた見守り・支え合い

### 具体的な活動

- 日頃からの地域活動や団体同士の交流を通じて、顔の見える関係をつくり、活動の中で住民同士のゆるやかな見守りを進めます。
- 活動の中で高齢者等の住民同士でゆるやかに見守ることができるよう、参加につながる情報の伝え方の工夫を進めます。  
(例: 回覧・掲示板に加えて、人が集まる場所への掲示などに取り組みます。)
- 活動の中で住民同士の交流が深まるよう、参加者が参加しやすい場の設定の工夫をします。  
(例: 若い世代が参加する場合は、土日に設定する、ICTを活用する、時間を区切る 等)
- 日頃のあいさつを通して、住民同士の顔の見える関係づくりをし、日常の中でゆるやかな見守りができるよう取り組みます。





# 山下地区 地区別計画

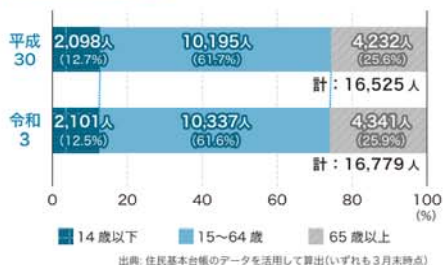


## 地区の特徴

山下地区では戸建て住宅地の開発や古い住居の建て替えによる比較的若い世帯の流入が進み、人口増加の要因になっています。しかし、尾根道沿いや高台の住宅地・集合住宅では、高齢者も多く、庭の手入れや部屋の掃除、買い物等に関する生活課題も表層化してきています。

また、横浜環状北西線が令和2年3月に開通し、山下地域ケアプラザが令和3年4月に開所しました。山下地域ケアプラザの実施事業と連携した、地域住民の一層の交流促進や福祉保健活動の充実が期待されます。

## 人口データ



## 地区の活動紹介



▲お茶べりサロン



▲わくわく



▲ささえあいバス

## 第3期計画の振り返り

地区内各所で行われているサロン活動のネットワーク化(ネットワークサロンの実施)、広報活動の充実による地域情報の共有化、災害時要援護者の把握と対応方法の検討等、3つの目標(※)に沿って取り組んできました。

具体的な成果としては、ネットワークサロンの中で話し合われていた男性の居場所づくりについて、「元気づくりステーション」としての活動開始や、区内で初めて災害時要援護者名簿の提供に係る協定を区と締結し、民生委員・児童委員による見守り活動を実施しています。

さらに、交通空白地に対するささえあいバスの運行、チョットした「お困りごと」に対するボランティア活動(生活支援事業)等、地域の課題解決に向けた取組が進んできました。

- ※3つの目標
- ①「地域での『つながり』を大切に、健康で元気に暮らし続けられるまちづくり」
  - ②「必要な『情報』が入手しやすいまちづくり」
  - ③「『防災・防犯』で安心・安全なまちづくり」

## 山下地区 地区別計画推進策定委員

次の各団体等の代表者で構成しています。(順不同)

- 連合自治会 ● 単位自治会 ● 地区社会福祉協議会
- 民生委員児童委員協議会 ● 保健活動推進員 ● 青少年育成会
- 青少年指導員 ● スポーツ推進委員 ● 地域防災拠点運営委員会
- まちづくり委員会 ● ネットワークサロン



目指したいまちのすがた・スローガン  
地域のつながりや支え合いのある  
誰もが元気で暮らし続けられる街をめざして

## 重点取組 1 住民相互の見守り、見守られる支え合いのまちづくり

### 具体的な活動

- 住民同士が支え合いながらサロンや昼食会などの活動を継続し、参加者同士のつながりをつくります。
- 日頃の生活の中での小さな気づきを住民相互で共有し、地域での「ゆるやかな見守り」を行います。
- 生活支援事業を継続し、チョットした「困りごと」に対し住民同士での支え合いを進めます。また、担い手を増やし、支え合いの輪を広げます。
- 災害時要援護者への支援について、日頃の支え合いのネットワークを活用して継続的に取り組みます。

## 重点取組 2 地域での「つながり」を大切に、「健康」で元気に暮らし続けられるまちづくり

### 具体的な活動

- 元気づくりステーションやスポーツイベントなどを通して、健康づくりを行いながら参加者同士のつながりをつくります。
- 「新しい生活様式」に合わせて地域の活動を続けることで、フレイル予防などを進めます。また、認知症の方も参加できる取組を行います。
- ネットワークサロンなどを活用し、地域内の活動団体間のつながりを深め、情報を共有し、住民が様々な活動に新たに参加するきっかけをつくります。

## 重点取組 3 必要な「情報」が入手しやすいまちづくり

### 具体的な活動

- 回覧板や掲示板を活用した情報発信を継続します。また、ささえあいバスや人が集まる場所(診療所、ドラッグストア、温浴施設 等)への紙媒体の掲示を進めます。
- 媒体の多様化の観点で、電子媒体での活動の情報発信に取り組みます。(例：FacebookやLINEなどを活用した活動の様子(写真、動画)の発信)
- 情報入手方法として、住民向けにスマートフォンの活用方法について学ぶ場を設けます。

# 新治西部 地区 地区別計画

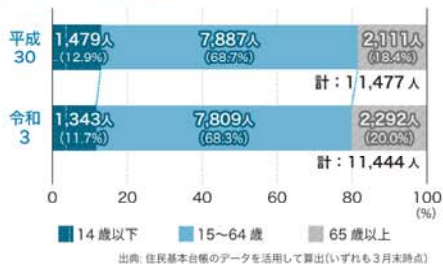


## 地区の特徴

JR横浜線十日市場駅南側を中心に、公共・商業施設、医療機関、住宅地が密集している一方、駅北側や新治町には、農地や新治市民の森など緑が多く残されています。

住民同士のつながりも強く、各種行事も充実していますが、新たに転居してきた住民との交流や高齢化による担い手不足などの課題があります。そのため、十日市場町では地産地消の魅力を伝える「いちば」の取組や、新治町や後谷自治会では、新旧住民の交流の機会の充実に取り組んでいます。

## 人口データ



## 地区の活動紹介



▲元気づくりステーション里山会のウォーキングイベント



▲十日市場「いちば」



▲こども村

## 第3期計画の振り返り

様々な世代が交流する機会となるよう、工夫してイベントを行っています。平成30年12月には、子どもの居場所として「こども村」が立ち上がりました。元気づくりステーションが3か所に増え、介護予防を通して高齢者の交流の機会となっています。

また、地域住民が交流できる場が増えていますが、その一方で、住民の高齢化、ライフスタイルの変化により、担い手として活動に関わる方はなかなか増えていません。

そして、地域の中で、認知症の方がいてもどう対応したらいいかわからないとの声があり、令和元年度は、単位自治会ごとに十日市場地域ケアプラザと連携して認知症サポーター養成講座を開催し、認知症について学びました。

令和2年度からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、各活動の継続に係る工夫が求められています。

## 新治西部地区 地区別計画推進策定委員

次の各団体等の代表者で構成しています。(順不同)

- 連合自治会
- 地区社会福祉協議会
- 民生委員児童委員協議会
- 保健活動推進員
- 消防団
- 老人クラブ
- スポーツ推進委員
- 青少年指導員
- 防犯部
- 小学校及び小学校PTA
- 中学校及び中学校PTA

目指したいまちのすがた・スローガン

あいさつを元気に交わそう!笑顔あふれ 集い楽しむ 新治西部

## 重点取組 1 地域の中で顔の見える関係を築き、交流を深めていきます

### 具体的な活動

- 子どもから大人まで幅広く参加できるファミリーフェスティバル、ウォーキングイベントや防災訓練などの地域活動を継続するとともに、内容や方法を工夫します。
- 新型コロナウイルスなどの新たな課題の中でも地域のつながりが途切れることのないよう、できることに取り組みます。
- 地域の中で交流を深めながら、健康づくりや仲間づくりにつながる取組を進めていきます。(例：体力等に合わせたお散歩マップの作成および活用)
- 活動を行うにあたって、活動団体同士が連携して企画・実施します。

## 重点取組 2 地域情報を多くの住民に届けられるようにしていきます

### 具体的な活動

- 地域で必要な情報が効果的に伝達できるよう、対面で情報交換できる機会を増やします。また、チラシ等の紙媒体や、インターネット・SNS等の電子媒体など、受け手に合わせた広報手段を工夫します。
- 隣近所でインターネットによる手続き方法やSNSの使い方を教え合うなど、必要な人に必要な情報が届くための取組を行います。
- 住民のさらなる活動参加につなげるために、各種活動内容について団体間で共有する場を設けます。

## 重点取組 3 次世代に活動をつなげられるよう取り組みます

### 具体的な活動

- 高齢者の経験や知恵を地域活動に活かすとともに、次世代へつなぐための仕組みづくりに取り組みます。(例：経験者が次の役員をフォローする仕組みの検討 等)
- 初めて参加した人でも、優しく迎えられような気配り(サポート)を地区内の活動に浸透させます。
- 防災訓練で子ども達が活躍できる方法を工夫するなど、次世代の育成を意識して地域活動に取り組みます。

# 十日市場団地地区 地区別計画

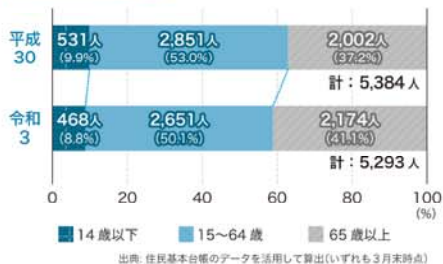


## 地区の特徴

昭和30年代に建設され、丘陵に沿って棟が並び約2,500戸の大規模市営住宅を中心とした地区です。高齢化率は40%を越えているため、住民間での見守りや支え合い、転入住民とのつながりづくりが目下の課題になっています。市営住宅の間には、URの集合住宅があります。また、20・21街区が開発され、令和元年11月にまちびらきイベントが行われました。

さらに、令和5年3月には、22街区のまちびらきが予定されています。

## 人口データ



## 地区の活動紹介



▲お茶飲み会



▲お楽しみ昼食会



▲こども村

## 第3期計画の振り返り

お楽しみ昼食会や配食サービスに加え、平成24年に開始したお茶飲み会は現在も継続して行っています。土曜日に開催する等、住民が参加しやすいよう工夫しています。平成30年12月には、子どもの居場所「こども村」が立ち上がり、地域の子どもたちに定着しつつあります。令和元年7月には元気づくりステーションが立ち上がり、介護予防活動を通じて地域の高齢者の交流の場となっています。しかし、参加者が固定しているという課題があり、今後は、新しい住民も含めた地域全体で、より一層の連携や交流を通じて、地域の支え合いやつながりづくりを進めていきます。

## 十日市場団地地区 地区別計画推進策定委員

次の各団体等の代表者で構成しています。(順不同)

- 連合自治会 ● 単位自治会 ● 地区社会福祉協議会
- 民生委員児童委員協議会 ● 保護司会 ● 保健活動推進員
- 環境事業推進委員 ● 消費生活推進員 ● 青少年指導員
- 小学校 ● 中学校



目指したいまちのすがた・スローガン

## 誰もが「住んで良かった」「住み続けたい」まち 十日市場団地

### 重点取組 1 地域での「見守り」を進め、支え合える地域にしていきます

#### 具体的な活動

- お茶飲み会や昼食会、配食サービス、清掃活動など、日頃の活動を通してゆるやかな見守りを継続します。
- 交流の場への参加が難しい人も孤立することがないように、自治会や民生委員・児童委員をはじめ、各団体が協力し、地域住民同士が見守り合う方法を検討します。
- 認知症等についての正しい理解を深めるなど、関係機関と連携した見守りの方法について学ぶ機会づくりを進めます。

### 重点取組 2 地域活動を充実させ、地域の中で「つながり」をつくっていきます

#### 具体的な活動

- 誰もが参加できるよう、これまで取り組んでいる活動を継続するとともに、活動内容や開催方法等を工夫します。
- こども村や世代間交流イベント、ラジオ体操、防災訓練などを通して、子どもから高齢者まで幅広くつながりを感じられるよう取り組みます。
- 初めて来る人も参加しやすい活動を実施することで、転入住民との交流を深めます。

### 重点取組 3 地域の情報の発信に取り組みます

#### 具体的な活動

- 地域活動の案内チラシについて、引き続き目に届きやすい場所への掲示を行うことができるよう管理組合等と連携します。
- 行事、イベントなどの周知を効果的に行うことができるよう、電子媒体の活用など広報の仕組みについて考えます。
- 会議や行事などの機会をとらえ、様々な情報の発信を進めます。



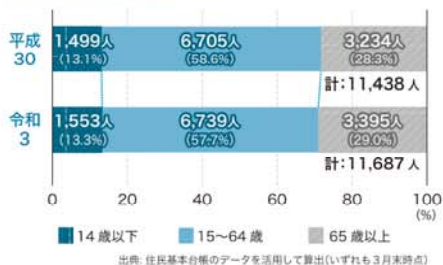
# 霧が丘地区 地区別計画



## 地区の特徴

昭和50年代に入居が始まった霧が丘グリーンタウンや戸建て住宅街を中心としたエリアで、街路樹や歩行者道路、緑豊かな公園等も計画的に整備されています。住民の年齢構成では、当時転入してきた層・団塊世代である現在70代前半が最もボリュームを占めており、少子高齢化が進んでいます(人口データ参照)。今後、この傾向が進むことがわかる一方で、要介護認定率が低いといった特徴・地域性もあります。また、インディアインターナショナルスクールインジャパン設立後、外国人の転入増加が続いています。

## 人口データ



## 地区の活動紹介



▲ 防犯パトロール



▲ 配食サービス



▲ 霧が丘健康チェックの日

## 第3期計画の振り返り

全自治会の定期的な見守り活動に加えて、霧が丘あんしんサポートでの防犯パトロールにより、ゆるやかな見守りが進められています。自治会や地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、老人会等での各々のサロン活動や教室などを継続して開催することに加えて、元気づくりステーション(3か所目)の新規立上げが実現しました。また、「健康チェックの日」を長年に渡り継続・発展させ、参加者増加に努めています。防災訓練も計画し、継続して実践しています。

このように、様々な団体が、多様な場面で地区に住む住民の交流できる機会を創出してきました。そこでは顔の見える関係性がつくれ、地域のネットワークがつながり、広がるきっかけになっています。今後、高齢者人口の増加が予測される中でも、これらの活動や取組が継続・発展し、活力のあるまちづくりにつながっていくことを目指します。

## 霧が丘地区 地区別計画推進策定委員

次の各団体等の代表者で構成しています。(順不同)

- 連合自治会 ● 単位自治会 ● 地区社会福祉協議会
- 青少年指導員 ● スポーツ推進委員 ● 民生委員児童委員協議会
- 保健活動推進員 ● 防犯事務局 ● 地域防災拠点運営委員会
- 小・中学校PTA ● 第一緑会
- 霧が丘見守りネットワーク運営委員会



目指したいまちのすがた・スローガン

## 防犯・防災・教育 日本一の街 霧が丘

感染症予防対策に留意しながら、次の取組を進めていきます。

### 重点取組 1 活動できる機会・場を通してつながりを大切にするまちづくり

#### 具体的な活動

- 乳幼児から大人まで幅広く参加し活躍できる、運動会やおまつりなどの連合自治会行事や防災訓練などを実施し、人と人とのつながりを深めるとともに、地域活動を次世代へつないでいきます。
  - ・小中学生の保護者世代が行事に参加できるよう、連合自治会とPTAと学校が連携して情報を伝えます。
  - ・転入してきた方には地域情報や行事などの案内に努め、自治会加入促進を図ります。
  - ・地域が学校と連携し、子どもたちへの学習の支援を継続して行います。
- これまで実施している会食会、朗読会、談和会、ボランティア相談室、元気づくりステーションなど様々な教室やサロン等の活動を継続します。また、活動の周知や参加の促進に取り組んでいきます。

### 重点取組 2 安全・安心・健康のまちづくり

#### 具体的な活動

- 第2期計画から実施している健康チェックやラジオ体操、防災訓練などの取組を継続していきます。
- 防犯パトロールや霧が丘見守りネットワーク、配食サービスなどの取組の継続および周知を行い、日常的にゆるやかな見守りができる体制づくりを目指します。
- 防犯や防災、健康づくりの意識を住民に広めるために、活動の周知や参加の促進に取り組んでいきます。



# 長津田 地区 地区別計画



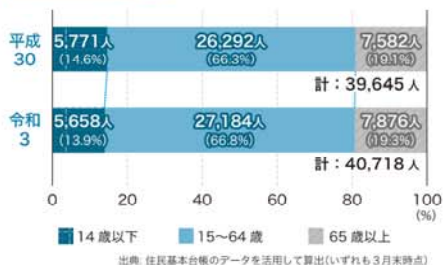
## 地区の特徴

緑区最大の面積と約4万人の人口、30もの単位自治会がある地区です。令和元年には長津田町が誕生して80周年を迎えました。

長津田みなみ台などでは、ここ15年ほどの大規模開発ラッシュで人口流入が続いています。自治会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会が三位一体となって取り組む体制が根付いています。認知症や見守りの取組における事業者との連携など、他地区に先駆けた取組を多数展開してきました。

令和元年度からは、「向こう三軒両隣ともに支え合うまちづくり運営委員会」を「高齢者福祉部会」「子ども子育て部会」「長津田ささえあいネット」の部会制にして具体的な取組の検討を進めています。

## 人口データ



## 地区の活動紹介



▲ 向こう三軒両隣ともに支え合うまちづくり (高齢者福祉部会)  
【長津田地区買い物情報】



▲ 向こう三軒両隣ともに支え合うまちづくり (子ども子育て部会)  
【緑区子育て情報&長津田地区親子でお出かけ会場MAP】



▲ 長津田地区食支援  
【令和2年度実施に協力していただいたボランティアの皆さん(上)】  
【令和3年度実施に向けた話し合い(下)】

## 第3期計画の振り返り

地域の中で、住民が集える場がいくつも立ち上がっています。イベント等では若い世代が参加し、地域住民の交流の機会となっています。

一方、担い手の減少で行事を減らす傾向にある自治会もあり、担い手の発掘・育成の課題があります。また、世代によって情報を入手する手段は異なります。若い世代への情報発信について検討していく必要があります。

そして、向こう三軒両隣ともに支え合うまちづくり運営委員会では、高齢者の買い物支援や子育て世代の交流支援の広報媒体の作成、事業者との見守りネットワークの構築・拡充に向けた取組を進めています。



## 長津田地区 地区別計画推進策定委員

次の各団体等の代表者で構成しています。(順不同)

- 自治連合会 ●地区社会福祉協議会 ●民生委員児童委員協議会
- 保健活動推進員 ●環境事業推進委員 ●青少年指導員
- 消費生活推進員 ●家庭防犯員
- 緑区心身障害児者福祉団体連絡協議会

目指したいまちのすがた・スローガン

向こう三軒両隣、様々な世代がおたがいさまでつながる長津田のまち、笑顔と元気は地域の宝物、いいよね長津田!希望のまちへ!

### 重点取組

## 1 おたがいさまの輪を大切に、地域の身近なところでのつながりづくり

### 具体的な活動

- 住み慣れた地域でなじみの関係を保ちながら、行事や活動に参加し、交流できる機会をつくり、おたがいが見守り、支え合う体制づくりを進めます。
- 自治会加入・未加入に関わらず、主に高齢者のフレイル予防や生活上のちょっとした困りごとの解決につながるような取組を進めていきます。(例:ラジオ体操・ちよこっとボラ 等)
- 地域の中で孤立しないで子育てができるように、集いの場や相談窓口の情報を整えていきます。
- 食支援を中心に、困っている人に支援が届くように取組を進めます。
- 事業所と自治会、地区社協、民生委員児童委員協議会などとのネットワークを通じて地域の見守り体制の構築を進めていきます。

### 重点取組

## 2 情報の受発信・伝達の工夫

### 具体的な活動

- 回覧板や掲示板のほか、広報物の全戸配布、SNSなども活用し、情報を届けたい対象に合わせた情報発信や伝達の方法を検討し、誰もが情報に触れられる機会を増やしていきます。
- 情報が一方通行にならず受け取る側の発信も受け止められるよう双方向性を意識した情報発信の方法を検討していきます。
- 必要な情報は厳選して繰り返し、広く行き渡るように発信していきます。

### 重点取組

## 3 次世代を見据えた住民同士の交流

### 具体的な活動

- 地域の魅力を発信し、若い世代から高齢世代まで地域への関心を喚起していきます。
- 世代を越えて顔の見える関係づくりを地域で進め、おたがいに話し合う場を設けていきます。
- 若い世代が自治会や地域の活動に参加しやすくなるように、すきま時間を活用した地域活動やボランティアへの参加の仕組みや工夫について検討していきます。
- 活動団体のOBやOGの力を積極的に活用するなど、新しい担い手が活動しやすくなるような取組を検討します。